

# 商店街復活高まる期待

国民的ボードゲームを商店街に置き換えて街歩きを促す出雲市発祥の「まちあそび人生ゲーム」が、普段なじみの薄い客を呼び込み、周遊してもらう切り札として全国各地の商店街の熱い視線を浴びている。同市平田町の平田本町商店街が始めた斬新なイベントに「うちでもやりたい」と問い合わせが相次ぎ、普及に向けたNPO法人を発足。ボードゲーム製造元のお墨付きも得る見通しだ。今後はイベントでできた客との結び付きを普段の商店街にぎわいにつなげられるか、関係者が知恵を絞っている。

（出雲総局報道部・熊谷美咲）

「想像以上にたくさんの方が集まり、喜んでもらえた」。平田本町商店街振興組合（40店）の平野裕三理事長（61）が振り返る。まちあそび人生ゲームは2011

3年7月、同商店街で初めて開催。出雲大社の表参道・神門通り（出雲市大社町・杵築南）での開催も含めて、これまでに計5回行い、計約1万人が参加した。大型店進出の影響などで全国各地の商店街が集客に苦悩する中、まちあそび人生ゲームへの関心は高く、東京、山形、愛媛、長野など約20カ所から問い合わせが相次いだ。

関係者は普及役となるNPO法人・出雲まちあそび研究所（平野裕三理事長）

を8月に設立。ボードゲーム製作元のタカラトミー（東京都葛飾区）も狙いに賛同し、「人生ゲーム」と銘打つ街歩きイベントは同研究所が監修するとの協賛契約を今月中に結ぶ運びとなった。

同社のおひさ元・東京都葛飾区の高砂南町商友会（約70店舗）もあやかろうとする商店街の一つ。石川拓磨副会長（40）は「商店街の認知度を高めたい」と来春の開催に向け、同研究所の指導を受け始めたところ

## 客とのつながり継続へ



神門通りの商店店員（右）と会話しながら、まちあそび人生ゲームを楽しむ参加者＝1月24日、出雲市大社町杵築南

だ。

「偶然の出会い」

商店街周遊を促す発想自体は、さほど目新しいわけではない。2002年に愛

知県岡崎市で始まった「まちゼミ」も一例に挙げられる。商店街各店舗を「塾」に見立て、店主らが専門知識や技術を無料で教える企画で、店に入る動機付けを行い、店に理解を深められる点は、まちあそび人生ゲームと共通する。

まちあそび人生ゲームが異彩を放つのはまず、元ネタのゲームが多くの人に知られ、イベントの内容がイ

メッセージしやすい点だ。さらにルーレットで出た目に従い、普段入らない店に入る「店との偶然の出会い」の演出が魅力を高めている。実際、出雲のイベント参加者からは「気兼ねなく入店でき、いい出会いができた」「初めて入った店も多く、また買い物したい」といった感想が寄せられた。

顔が見える関係

期待の高まる出雲発の集客イベントが普段のにぎわいに結び付くか、これから商店街の底力が問われる。

まちあそび人生ゲームは「物産に科学的な石原武政特別教授（72）＝商業論＝は「物産に

## 店主ら魅力づくり鍵

リピーターになってもらうためイベント時に割引券を渡すなど各店主らに工夫を促しており「今後さらに各店が客とのつながりを強める工夫が必要」と足並みをそろえ、商店街の魅力アップを図る考えだ。

クリック

まちあそび人生ゲーム商店街の店舗をゲームのマップに見立て、参加者はルーレットで出た目に従って店舗を巡り、店員と専用通貨をやりとりしながらゴール

を目指す。NPO法人・出雲まちあそび研究所はゲーム製作元のタカラトミーと協賛契約締結を予定。「人生ゲーム」と銘打つ街歩きイベントは同研究所が監修し、ルーレットや通貨を貸し出すことになる。

沿い、時間を掛けて楽しみながら巡ることで商店街に理解が深まる」とイベントを評価。その上で課題に「大型店とは違う客の顔が見える関係づくり」と「商店街の横のつながりの再構築」を挙げ、商店街や個店の魅力づくりという基本原則をあらためて説く。

平野理事長によると、平田本町商店街や神門通りにはイベント参加後「ゆっくりに店を見に来た」という客もあるといい、効果は出始めている。